

令和2年(2020年)4月 青果部 主要品目の市況

	種類	品名	市況の概要	2020年4月 数量 (トン)	2020年4月 平均単価 (円)	前年同月比 数量	前年同月比 平均単価
1	野菜	大根	千葉県産、茨城県産中心の入荷でした。朝晩の冷え込みにより、生育に影響が出て、L・Mサイズ中心の入荷でした。平均単価はスーパー・量販店向け需要が強く、高く推移しました。	435	123	98%	116%
2		キャベツ	神奈川県(三浦)県産中心に、千葉県産、愛知県産の入荷でした。全体的に前進出荷の傾向となり、入荷量は増加しました。平均単価はスーパー・量販店向け需要が強く、大幅に高く推移しました。	1,182	148	116%	155%
3		トマト	4月の夜温の低さによる着色不良と関東産地は9月の台風の影響から作付が減少したため、入荷量はかなり減少しました。平均単価は高く推移しました。	386	413	76%	120%
4		レタス	茨城県産、香川県産、兵庫県産中心の入荷でした。各産地とも天候が不安定で、朝晩の気温も低く、入荷も不安定でしたが、入荷量は増加しました。平均単価は高く推移しました。	312	238	116%	117%
5		馬鈴薯	北海道産の切り上がりが早く、鹿児島県産は土壌菌の発生により大幅な入荷減となり、入荷量は減少しました。平均単価は、スーパー・量販店向け需要が強く、かなり高く推移しました。	314	176	89%	135%
6	果実	甘夏	生産量が少なく、冬からの前進傾向と貯蔵品の産地ロスが重なり、入荷量は減少しました。平均単価は、スーパー・量販店向け需要が強く、やや高く推移しました。	95	199	94%	108%
7		ふじ	主力の青森県が生産量が少なく、年明けからの前進出荷と貯蔵在庫も2割強少なかったことから、入荷量はかなり減少しました。平均単価は、スーパー・量販店向け需要が強く、大幅に高く推移しました。	265	438	74%	165%
8		いちご	昨秋からの苗の生育不良により、前年を下回る出荷が続いており、特に九州産が少なく、入荷量は減少しました。平均単価は、スーパー・量販店向け需要が強く、やや高く推移しました。	178	1,196	86%	108%

【増減基準】

- ①並み、横ばい:(+)-0~2%
- ②やや増加(減少):(+) 3~10%
- ③増加(減少):(+) 11~20%
- ④かなり増加(減少):(+) 21~50%
- ⑤大幅に増加(減少):(+) 51%以上